平成26年8月2日
現地説明会資料

勝龍寺城跡の土塁・空堀の発掘調査
（長岡京跡右京第1084次調査）

遺跡名　勝龍寺城跡、神足城跡、長岡京跡、神足遺跡
所在地　長岡京市東神足２丁目地内
調査期間　平成26年６月23日～８月12日（予定）
調査主体　長岡京市教育委員会
調査機関　公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター
調査面積　82㎡（予定）

１　これまでの調査と目的

勝龍寺城跡は、平成４（1992）年に公園整備された本丸と沼田丸のほかに、神足神社西側に土塁と空堀が残されています。現存する遺構は、本丸の発掘調査や江戸時代の絵図、現地確認できる土塁や堀の有りようから、細川藤孝が元亀２（1571）年に城を大改修した際の姿を留めるものと考えられています。近年は、山崎合戦に関わる堀の発見などが注目されたり、NHK大河ドラマで勝龍寺城跡が登場するなど話題となりました。

今回の調査は、神足公園の拡張整備に伴うもので、昨年の調査成果に基づき、神足神社西側に残る空堀と土塁に５箇所の調査区を設定しました。調査の目的は、勝龍寺城跡の土塁・空堀の規模と構造を解明すること、神足村の土豪神足氏の居館である神足城跡に関する具体的な資料を得ることです。このほか本地点は、長岡京跡右京七条一坊七町推定地に当たるとともに、旧石器時代から室町時代まで続く市内屈指の複合遺跡である神足遺跡に位置することから、古い時代の遺物や遺構が残る可能性があります。

２　各調査地の成果

１トレンチの成果　昨年度に南北土塁の東斜面を土塁頂部から空堀底まで調査した際に確認された段丘礫層（地山）を掘り込む遺構の性格を明らかにするために設定しました。南北土塁は、比高約6.5ｍ、傾斜角45度の急斜面となっています。調査では、南北土塁に直交して設けた
昨年の調査区を空堀から土塁構築土上層まで再び露出させたうえ、遺構が延びる南側を掘り拡げたところ、土塁のほぼ真ん中あたりから幅約3.8ｍ、深さ約1.5ｍの東西方向の堀を確認しました。堀底の標高は約14.8ｍで、現在の空堀底との比高は約２ｍです。南北土塁に先行して掘られた堀は、元亀２年に改修された南北土塁の下に埋没して残っていました。

２トレンチの成果　土橋と東西土塁が交差する調査区。土橋の東側にはかつて稲荷の祠があり、緩い斜面は階段状に石が置かれています。土塁中程には、狐の土人形や、茶碗、瓦などがやや大きめの石とともに廃棄されていました。西側も緩い斜面となっており、黄橙色と黒色土が交互に盛られた盛土層が観察できます。土橋両側の土塁は、上部の幅が狭く低い傾斜面となっていることから、かなり削平を受けて元の形状は失われているようです。柱穴などは見つかっていません。

３トレンチの成果　土橋と南北土塁を等距離に東へ折り返した地点に設定しました。この部分では堀は茶褐色土で埋められ、最下層では細かな石を多く入れた黄色砂礫層でつき固められていました。この埋め土は西側へ傾斜する面となっていました。江戸時代の瓦や土師器、陶磁器、狐の土人形のほか、戦国期の土師器鍋、長岡京期の土器類が出土しました。

４トレンチの成果　東西土塁の南斜面に設けた調査区。黄橙色と黒色土が交互に盛られた盛土層が観察できます。斜面は竹の根株で凸凹しており、現況の土塁頂部も緩やかに東へ傾斜しています。

５トレンチの成果　２トレンチ南側の調査区。東西土塁の南斜面では最も緩やかな傾斜面となっています。南北方向の溝から瓦や土器類が出土しました。

３　ま と め

昨年度の調査で初めて確認された南北土塁構築以前の遺構は、今回の調査で幅3.8ｍ、深さ約1.5ｍの断面が逆台形をした東西方向の堀であることがわかりました。周辺で確認された堀跡と地名、地割などを元に検討した結果、神足城の堀である可能性が高いと考えられます。神足城は東西土塁を北辺に、南に延びる南北土塁を西辺とする一辺約50mの方形を呈する居館で、周囲は土塁と堀で囲まれていたとみられます。居館内の調査では、鎌倉～南北朝期の井戸跡や、溝、柱穴などが見つかっています。

細川藤孝が元亀２年に改修した勝龍寺城は、神足城北辺の土塁と堀を活かしてより大きなものに再編し、さらに東西に延ばして土橋の両側に横矢を設けました。一方、北辺以外の堀や内溝などは埋め戻されましたが、土塁や城内の区画は新しい勝龍寺城の区画として取り込まれたと考えられます。細川藤孝の勝龍寺城は、神足城の機能を継承して利用し、再編に合わない堀や溝は埋め戻された実態が明らかになりました。

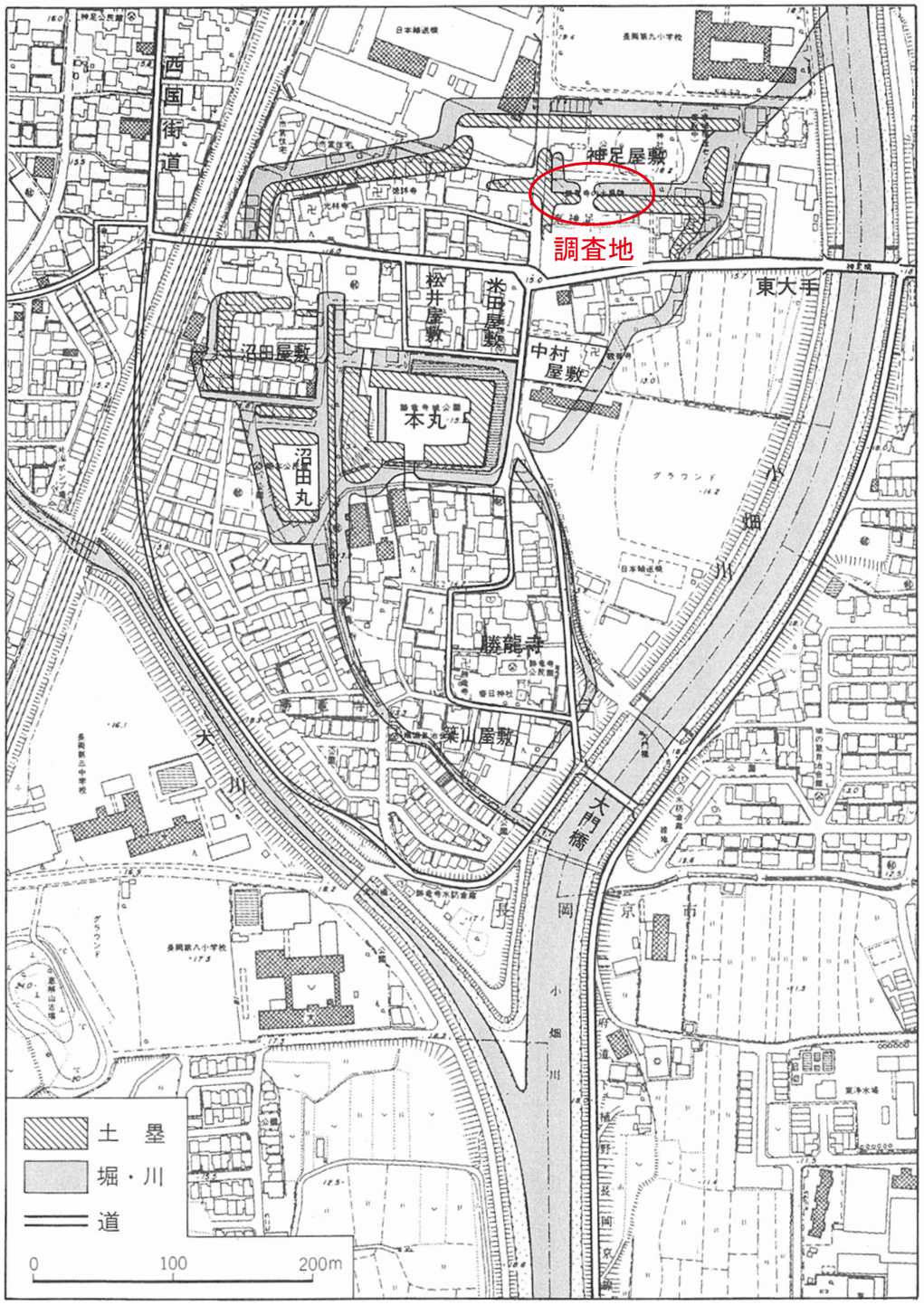

図１　勝龍寺城縄張復原図（長岡京市史本文編一）

戦国時代の勝龍寺城関連年表

西暦	年号	月	事　　項
	(年未詳)	6	このころ物集女氏ら三好長慶方の山城国人が、東寺に勝龍寺城普請に人夫を提出するよう要求する
1552	天文 21	10	～11 月、細川晴元と三好長慶の抗争により西岡近辺が放火され、三鈷寺・善峯寺などが炎上する (言継卿記)
1561	永禄 4	3	三好義興・松永久秀が山崎に撤兵し、松山新介・池田衆らが西岡に陣をすえ、今村慶満・高野瀬備前守らが勝龍寺城に籠もる
1565	永禄 8	7	三好勢によって勝龍寺城が落城し、石成友通が入城する
1567	永禄 10	3	勝龍寺城に入城した石成友通が、西岡表の明き所の差配を勝龍寺城より申し付けようとする
1568	永禄 11	9	26 日、織田信長入京、勝龍寺城で合戦がある
1569	永禄 12	1	8 日、敗退した三人衆方追撃のため、細川藤孝・三好義継・池田勝正らが勝龍寺城に進駐する
		—	米田求政が勝龍寺城に来て、細川藤孝の旗下に属すると伝える
1570	元亀 1	8	足利義昭が一宮より帰り勝龍寺城に入る
1571	元亀 2	2	細川藤孝が勝龍寺城に帰城する
		3	勝龍寺城において舞曲十番が催される
		10	細川藤孝が桂川より西の在所から人夫を徴発し、勝龍寺城を普請する
1573	元亀 4	7	10 日、織田信長は細川藤孝の忠節を賞し、桂川から西の地一の領知を認める このころ細川藤孝が姓を長岡に変える
		7	18 日、槇島城の足利義昭が降伏し、室町幕府が滅亡する
		7	27 日、長岡藤孝が元勝龍寺城主石成友通を淀に討つ
1574	天正 2	6	長岡藤孝が、勝龍寺城殿主 (天守) において、三条西実澄より古今集切紙を伝授される
1575	天正 3	9	長岡藤孝が松井康之に命じ、物集女宗入を滅ぼす
		12	吉田兼見が勝龍寺城におもむき、沼田丸で長岡藤孝と面会する
1576	天正 4	10	長岡藤孝が日本書紀神代巻中の不明な点を質問するため、吉田兼見を勝龍寺城に招く
1577	天正 5	12	勝龍寺城新造御殿において長岡藤孝が里村紹巴らを招いて連歌の会を催す
1578	天正 6	8	長岡忠興と明智光秀娘玉との婚礼が勝龍寺城にて行われる
		10	勝龍寺城において、囲碁の会が行われる
1580	天正 8	③	大坂石山本願寺が信長に降伏し、信長の畿内平定が完成する
		8	長岡藤孝・忠興が信長から丹後国を賜り、勝龍寺城を離れる
1581	天正 9	3	藤孝丹後移封により空城となった勝龍寺に城代矢部・猪子が入り、藤孝の家老松井康之が丹後に移る
1582	天正 10	6	2 日、本能寺の変がおこる
		6	12 日、勝龍寺の西で足軽が出会い鉄砲を撃ち合う
		6	13 日、山崎の合戦で光秀敗れ、勝龍寺に逃げこみ、夜陰逃亡する
		7	羽柴秀吉が山城国の指出を命じ、山崎に築城する
1587	天正 15	8	細川玉が洗礼を受け、ガラシャと名乗る
1600	慶長 5	7	大坂城下細川邸でガラシャが自害する
		7	八条宮智仁親王が細川幽斎から古今伝授をうける
		9	関ヶ原の戦い
1603	慶長 8	2	徳川家康が征夷大将軍になり、江戸に幕府を開く

城郭用語集

縄張（なわばり）　曲輪の配置や土塁・堀などによって構成される城郭の平面プラン。
曲輪・郭（くるわ）人間が活動できるように削平された平場。
堀（ほり）　溝状に地面を掘り窪めて設けた防御施設。
空堀（からぼり）　滞水しない堀
土塁（どるい）　造成土や地山の整形によって築かれた土手状の高まり
横矢（よこや）　塁線に折れなどを設けて，攻めてくる敵兵を側面から攻撃できるようにした施設
虎口（こぐち）　城郭や曲輪への出入り口
土橋（どばし）　虎口よ通路を確保するために、堀の中に造成土や地山の整形によって設けられた土の橋
居館（きょかん）　平時に居住するための施設。
織豊系城郭（しょくほうけいじょうかく）　織田・豊臣氏の勢力によって築かれた城郭

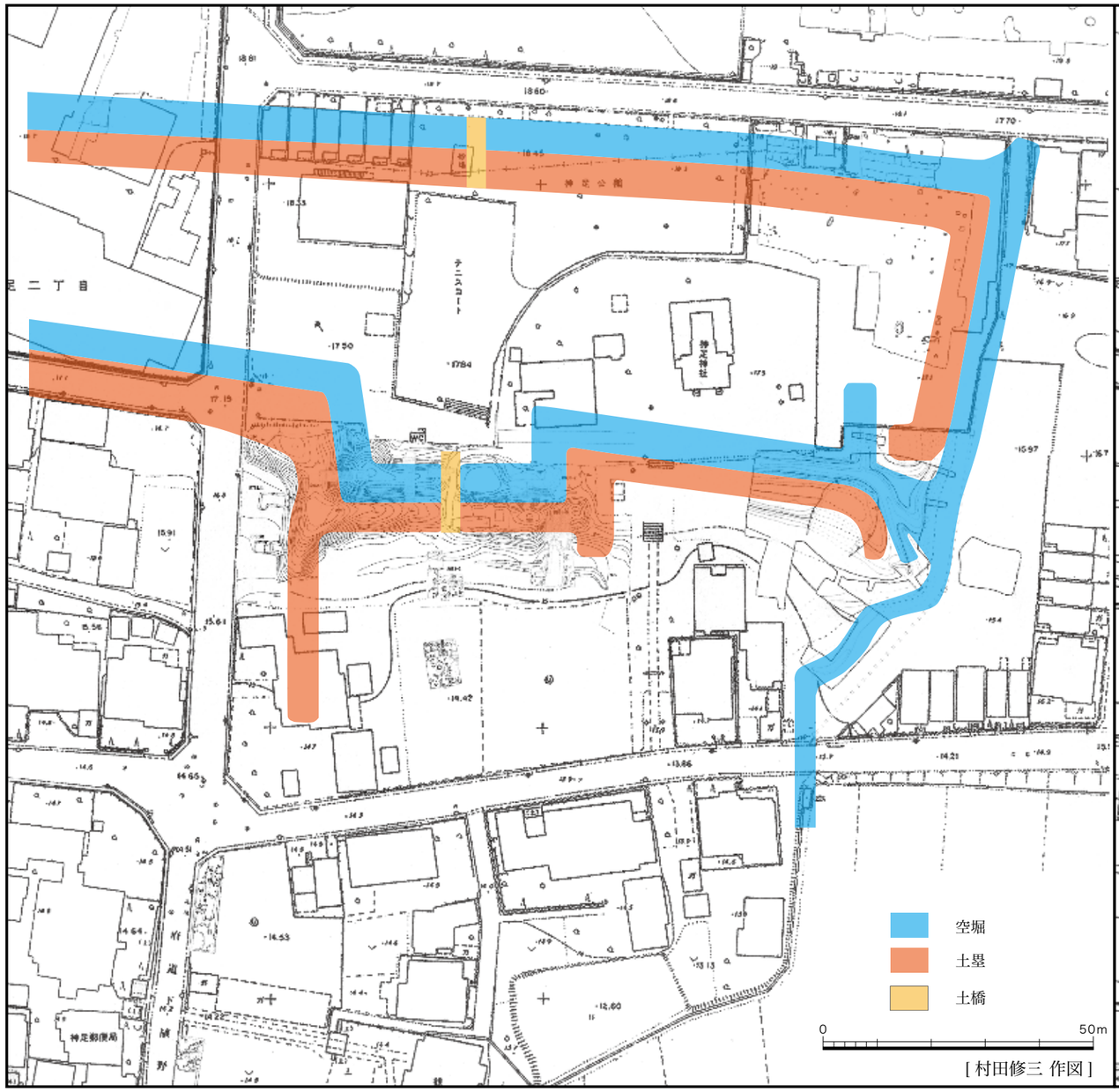

図２　勝龍寺城外郭の推定復原図（1/200）

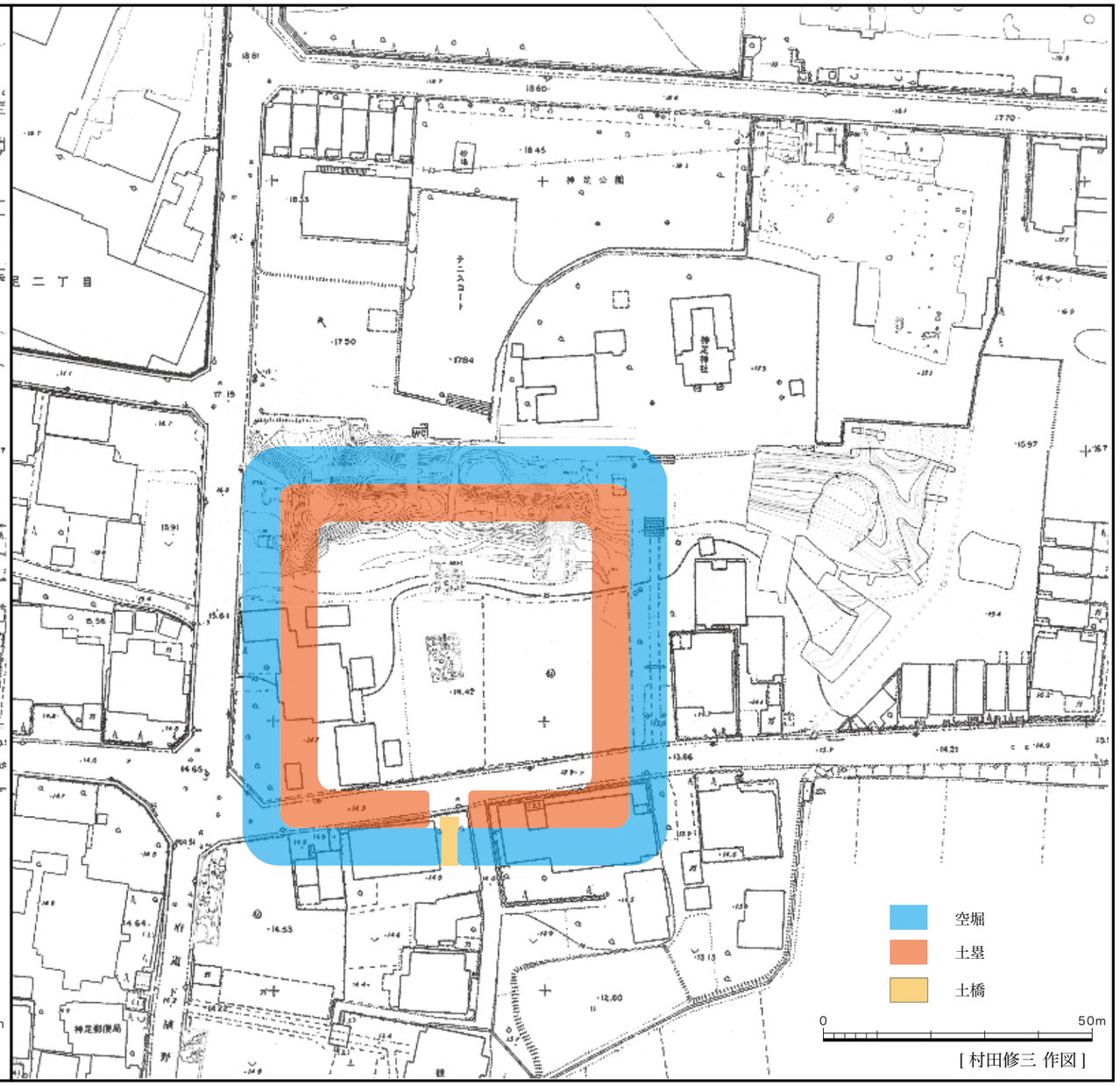

図３　中世神足城の推定復原図（1/200）

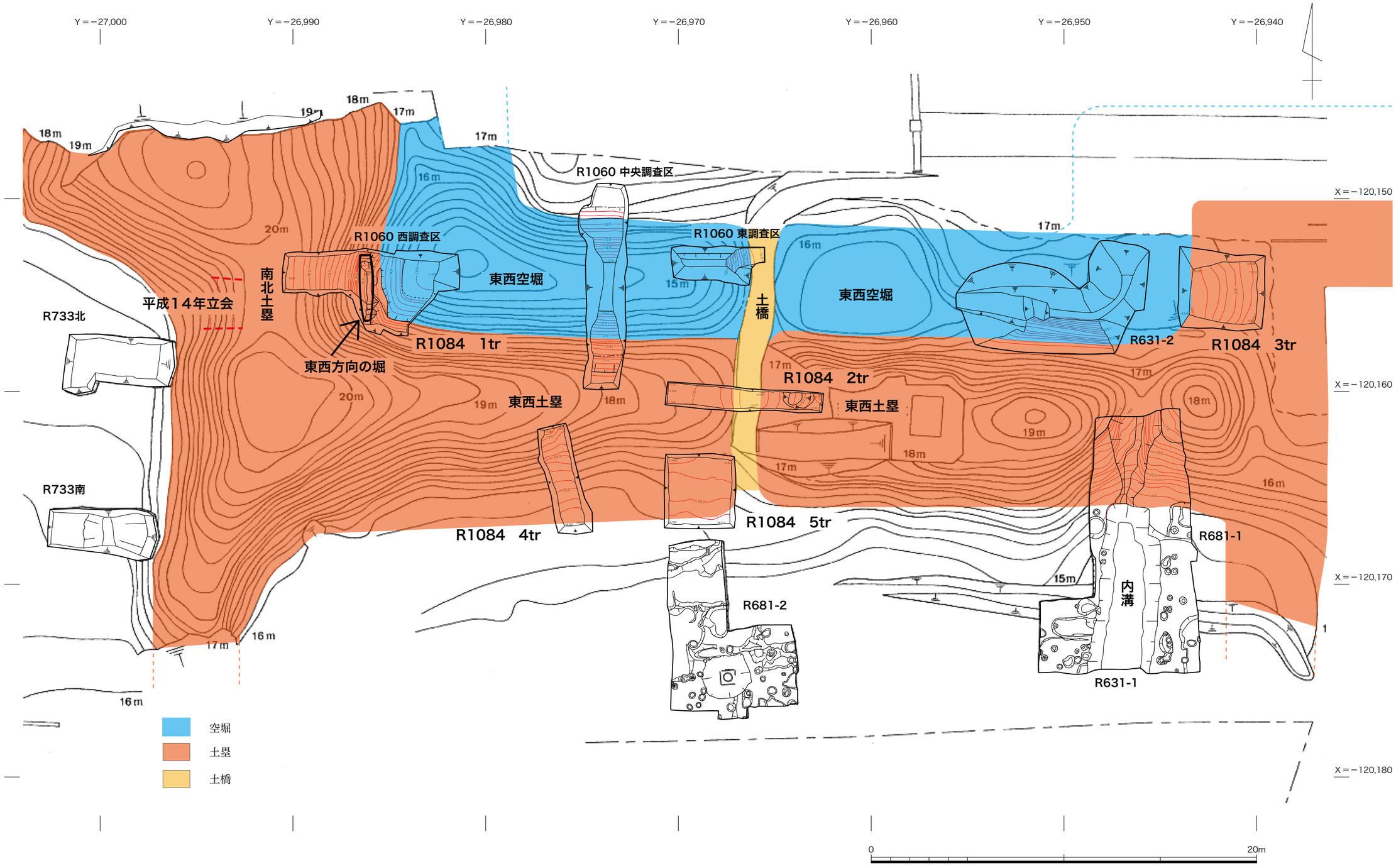

図４　土塁・空堀の調査地（1/200）